

平成八年度論文題目

- 安部 直子 金子みすず論 — 生涯とその作品論 —
 糸永 百恵 可能表現の史的変遷
 植松 雅敬 「銀河鉄道の夜」におけるジョバンニとカムパ
 ネルラの友情の考察
 大下美由紀 清少納言の美意識
 — 枕草子に見える自然描写から
 大坪 寛明 武者小路実篤の恋愛観
 — 小説「友情」を中心に —
 小川 善次 菊池寛論 — 「恩讐の彼方に」をめぐって —
 川上 将司 「源氏物語」 — 光源氏の恋愛観の変遷 —
 川原 猛寿 萩原朔太郎論
 城戸 玲子 室町時代における引用形式の国語学的研究
 — 「延慶本平家物語」狂言台本を中心に —
 工藤絵里子 北原白秋論
 才峠 泰治 作品論 芥川龍之介「羅生門」
 酒井 美香 宮澤賢治の思想を宗教観 — 作品を通して —
 三妙麻由美 川端文学にける女性像
 下岡 仁 国木田独歩の文学
 豊福 康弘 「和解」考 — その父と子の関係を中心に —
 中川留美子 夏目漱石の小説について
- 中庭 弥生 「或る女」論 — 有島が葉子に求めたもの —
 西村明日香 方言国語史研究 — 「おそろしい」を中心に —
 萩原美由紀 「山羊の歌」 — 泰子への思い —
 藤田 麻美 夏目漱石論 — 作風の遍歴とその背景 —
 政重 大輔 釈道空論 — 短歌に見られる民俗学的思い —
 松藤 文字 北原白秋論
 松村 陽二 夏目漱石論
 — ロンドンへの留字が漱石におよぼした影響 —
 三浦 令 島崎藤村論 — 藤村における旅 —
 三代 容子 「更級日記」の研究
 宮崎 佳士 萩原朔太郎論
 「郷土望景詩」に見られる犀星の影響
 宮里 久美 山之口ばく猿論 — 貧乏生活からの視点 —
 村田 真紀 萩原朔太郎論
 柳井真理奈 室生犀星論 — 犀星の詩の本質 —
 和田 保久 和泉式部の男性観について
 荒金 申子 丸山薫論
 韓 蓮牛 日本語動詞のアスペクト
 松下 恭子 天草方言における文末詞研究
 — ナ・ネ・ノを中心に —

〈行事〉

◇春季大会

日時 六月四日(水曜日)午後一時より

場所 三号館ホール

【講演】

・堀辰雄と軽井沢

山本裕一先生

・「待つ」という呪縛 —坂上郎女の歌をめぐる—

浅野則子先生

◇秋季大会

日時 十一月十八日(火曜日)午後一時より

場所 三号館ホール

【研究発表】

・定家の歌論に内在する「古」について

大塚里美

・『奥の細道』典拠再考 —「室の八嶋」をめぐる—

猪熊絢 今里敦子

・『源氏物語』「若菜」巻をめぐる

近藤 文

【講演】

人生論的文芸論—山本周五郎の文学を中心に—

文芸評論家 木村久邇典先生



木村久邇典先生

◇国文学特殊研究(比較文学Ⅰ)海外研修旅行

ドイツ(ミュンヘン) / スイス(ジュネーブ) / イギリス(ロンドン)

◇第二次オリエンテーション

場所 竹田方面